

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																									
専門学校札幌デザイナー学院		平成1年12月28日		澁谷 俊彦		〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-272-2800																									
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																									
学校法人北海道安達学園		平成1年11月28日		安達 保敏		〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-205-7600																									
分野		認定課程名		認定学科名		専門士		高度専門士																							
文化・教養		専門課程		ビジュアルデザイン学科 グラフィックデザイン専攻		平成6年文部科学省 告示第八十四号																									
学科の目的		ベーシックデザインから始まり、デッサン、カラープランニングなどで基礎力を付け、現場に即した専攻授業で、実践力を育成。																													
認定年月日		平成26年 3月 31日																													
修業年限		昼夜		講義		演習		実習		実験	実技																				
2年		1848時間		200時間		0時間		1648時間		0時間	0時間																				
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内数)		専任教員数		兼任教員数		総教員数																					
340人の内数		43人		5人		5人		5人		10人																					
学期制度		■前期:4月1日～9月24日 ■後期:9月25日～3月31日				成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 ABCDE(E=未習得)																							
長期休み		■学年始:4月1日～4月2日 ■夏季:7月25日～8月29日 ■冬季:12月19日～1月10日 ■学年末:2月10日～3月31日				卒業・進級条件		進級:出席率90%以上 単位習得85%以上 進級制作審査合格 卒業:出席率90%以上 単位習得85%以上 卒業制作審査合格																							
学修支援等		■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個別面談等の実施。				課外活動		■課外活動の種類 コンペなどへ自主的参加 ■サークル活動: 無																							
就職等の状況※2		■主な就職先・業界等(平成28年度卒業生) 須田製販、ダイヤモンドヘッド他 ■就職指導内容 ホームルームの授業などで、就職に対する意識づけ、業界就職に対する正しい認識を指導 ■卒業生数 : 18 人 ■就職希望者数 : 17 人 ■就職者数 : 17 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 94 % ■その他 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)				主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ビジネス能力検定</td> <td>③</td> <td>2人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	ビジネス能力検定	③	2人	2人												
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																												
ビジネス能力検定	③	2人	2人																												
中途退学の現状		■中途退学者 4名 平成28年5月1日時点において、在学者35名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者31名(平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 学修意欲低下、進路変更、病気療養他 ■中退防止・中退者支援のための取組 カウンセリング、転専攻、転学科の実施。 学科担当教員が、日頃より学生とコミュニケーションを密にする。				■中退率 11%																									
経済的支援制度		■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 奨学生制度(試験奨学生、チャレンジ奨学生、高校既卒者・社会人奨学生)、AO特待生入学、縁故優遇制度、語学優遇制度、在校生表彰制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																													
第三者による学校評価		■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																													
当該学科のホームページURL		https://www.sdq.ac.jp/corse/visual/graphic/																													

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

ビジュアルデザイン学科教育内容

① ベーシックデザイン、デッサン、カラープランニング、基礎CGは必修科目で、基礎力を育成

② 専攻授業で即戦力を養成するカリキュラム

③ 視覚伝達論やデザイン論で、幅広い教養科目

④ 就職に向け、ソーシャルコミュニケーションや就職対策でビジネス能力検定やマナー、面接などを学ぶ

上記の教育内容を企業等との連携により、必要となる最新の知識・技術・技能等を反映するため、企業等の意見を十分に活かし改善等計って行く

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程の編成にあたっては、教育課程編成委員会での審議を通して示された企業などの要請その他の情報・意見を十分に生かして実践的かつ専門的な職業教育を実施するにふさわしい教育課程の編成。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	1年更新	①
石黒 由紀夫	石黒工作所(有) 取締役	1年更新	③
澁谷 俊彦	専門学校札幌デザイナー学院 学校長		
立岡 好人	専門学校札幌デザイナー学院		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

② 学会や学術機関等の有識者

③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回 春、秋

(開催日時)

第1回 平成25年11月3日 10:00～11:30

第2回 平成26年2月7日 13:00～14:00

第3回 平成26年9月19日 10:00～11:30

第4回 平成27年2月26日 12:30～14:00

第5回 平成27年12月18日 12:30～13:30

第6回 平成28年5月19日 12:30～12:50

第7回 平成28年12月16日 11:45～12:05

第8回 平成29年10月20日 10:00～10:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。1、クラス担任制2、前後期・二期制3、1年次進級試験4、2年次卒業制作5、教員マニュアル6、学習案内作成

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

課題制作・打ち合わせ・発表を通し実作業の経験を繰り返し習得させる。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

教室内での打ち合わせ

実技指導

作品チェック

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
グラフィックデザイン専攻	企画・制作を基本に、企画に対しての市場調査、更に販売戦略の考え方を実践し、これからの広告や新しい媒体を考え、デザインの在り方を学ぶ。	敦賀広告事務所 敦賀 富美男

デッサン	デッサンの基礎の習得から構図やプロポーションなど、物の見方・影の捉え方について学ぶ。	フリーアーティスト 曾田 千夏

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

連携企業の担当者とともに、関連団体のイベントや関連企業への現場訪問を通して、業界の情報収集や情報共有などで教員の資質の向上を図って行く

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

北海道私立専修学校各種学校連合会主催 教員研修会(7月、12月)

マイナビ研修会(H29.5.25)

Jobカフェ北海道教員研修会(H29.5.31、H29.6.7)

② 指導力の修得・向上のための研修等

北海道私立専修学校各種学校連合会主催 教員研修会(7月、12月)

マイナビ研修会(H29.5.25)

Jobカフェ北海道教員研修会(H29.5.31、H29.6.7)

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

北海道私立専修学校各種学校連合会主催 教員研修会(7月、12月)

② 指導力の修得・向上のための研修等

北海道私立専修学校各種学校連合会主催 教員研修会(7月、12月)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会は学校法人北海道安達学園に位置付け、本法人の各学校に関係の深い企業等関連の方々を中心に、自己評価を基にご意見等を幅広くお聞きして、今後の教育活動や学校運営に反映させるべく法人全体に係る学校関係者評価を実施する

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	1-1 理念・目的・育人人材像は定められているか 1-2 学校の特色は適正か 1-3 学校の将来構想を抱いているか
(2) 学校運営	2-1 運営方針は定められているか 2-2 事業計画は定められているか 2-3 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-4 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-5 意思決定システムは確立されているか 2-6 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

(3)教育活動	3-1各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-2修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 3-3カリキュラムは体系的に編成されているか 3-4学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-5キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 3-6授業評価の実施・評価体制はあるか 3-7育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-8教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-9成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-10資格取得の指導体制はあるか
(4)学修成果	4-1就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか 4-2資格取得率の向上が図られているか 4-3退学率の低減が図られているか 4-4卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5)学生支援	5-1就職関する体制は整備されているか 5-2学生相談に関する体制は整備されているか 5-3学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 5-4学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5-5課外活動に対する支援体制は整備されているか 5-6学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-7保護者と適切に連携しているか 5-8卒業生への支援体制はあるか
(6)教育環境	6-1施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 6-2学科実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-3防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	7-1学生募集活動は、適正に行われているか 7-2学生募集において教育成果は正確に伝えられているか 7-3入学専攻は適性かつ公平な基準に基づき行われているか 7-4学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	8-38中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 8-39予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 8-40財務について会計監査が適正に行われているか 8-41財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	9-1法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-2個人情報に監視、その保護のための対策がとられているか 9-3自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-4自己点検・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	10-1学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 10-2学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11)国際交流	11-1グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会実施の意見として、自己評価に基づくことと了承。今後は、自己評価の課題を踏まえ、今後の改善等を計画的に検討し改善等を計り、各校・各学科に活用していくこととする

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年10月31日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	1年更新	企業等委員
松倉 大樹	株式会社きしだ Studio BACU CGIチーフディレクター	1年更新	企業等委員
原 大介	ユアワークス 代表	1年更新	企業等委員
本間 裕也	北海道犬ぞり連盟 事務局長	1年更新	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
 (例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
 (公表方法:ホームページ 公表時期:平成29年11月中)

URL:https://www.sdg.ac.jp/top/wp-content/uploads/2016/09/P2015_SDG_20160301.pdf

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校が設定する情報項目に基づき、学校関係者へ幅広く情報を提供する

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	<ul style="list-style-type: none"> ・基本情報 ・開校の目的 ・沿革 ・教育方針
(2)各学科等の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・定員 ・各学科 教育理念・教育方針・教育内容(カリキュラム・目指す資格・行事)
(3)教職員	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育への取り組み ・実習・実技、企業連携等の紹介(インターンシップ等) ・就職支援の取り組み(キャリアセンター)
(5)様々な教育活動・教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・校外実習 ・校外見学 ・学校設備状況 ・サークル活動等 ・海外研修
(6)学生の生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学生生活サポート
(7)学生納付金・修学支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学費 ・学費サポートシステム
(8)学校の財務	<ul style="list-style-type: none"> ・消費収支計算書
(9)学校評価	<ul style="list-style-type: none"> ・自己点検自己評価 ・学校関係者評価
(10)国際連携の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流・連携
(11)その他	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時非常時緊急時の対応

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

<https://www.sdg.ac.jp/%E6%83%85%E5%A0%B1%E5%85%AC%E9%96%8B/>

授業科目等の概要

(文化教養専門課程ビジュアルデザイン学科グラフィックデザイン専攻) 平成29年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			視覚伝達論	バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーションの有り方の違いなど、ビジュアルを主とするコミュニケーションの方法論を学ぶ。	1 前期	34	2	○			○		○			
○			ソーシャル・コミュニケーション	社会人としての基本的なマナーやビジネス文書を学習。ビジネス能力検定のための学習も行う。	1 前期	34	2	○			○		○			
○			ベーシックデザイン	デザインに必要な平面・空間構成の方法論を学び、あらゆるデザインワークに対応できるように基礎を学習する。	1 前期	68	4				○	○		○		
○			デッサン	デッサンの基礎の習得から構図やプロポーションなど、物の見方・影の捉え方について学ぶ。	1 前期	68	4				○	○		○	○	
○			カラープランニング	道具の正しい使い方を演習を通じて習得し、平塗り、混色、イメージ配色へと発展させていく。	1 前期	68	4				○	○		○		
○			CG I	イラストレーターやフォトショップのソフトを使用し、デザイナーに必要な基礎知識や技術を身につける。	1 前期	68	4				○	○		○		
○			表現技法	画面に陰影や質感を感じる力を育む。実習を通してマチエールを作る技術や紙の加工技術、特性を身に付ける。	1 前期	34	2				○	○		○		
	○		グラフィックデザイン専攻	印刷に関わる基礎から始まり、実際に印刷の工程までを実体験し、また広告の概念から制作を学習する。	1 前期	102	6				○	○		○	○	○
合計					8科目	476単位時間(28単位)							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程ビジュアルデザイン学科グラフィックデザイン専攻) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			視覚伝達論	バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーションの有り方の違いなど、ビジュアルを主とするコミュニケーションの方法論を学ぶ。	1後期	32	2	○			○		○		
○			ソーシャル・コミュニケーション	社会人としての基本的なマナーやビジネス文書を学習。ビジネス能力検定のための学習も行う。	1後期	32	2	○			○		○		
○			ベーシックデザイン	デザインに必要な平面・空間構成の方法論を学び、あらゆるデザインワークに対応できるように基礎を学習する。	1後期	32	2			○	○		○		
○			デッサン	デッサンの基礎の習得から構図やプロポジションなど、物の見方・影の捉え方について学ぶ。	1後期	64	4			○	○			○	○
○			カラープランニング	道具の正しい使い方を演習を通じて習得し、平塗り、混色、イメージ配色へと発展させていく。	1後期	32	2			○	○		○		
○			CGI	イラストレーターやフォトショップのソフトを使用し、デザイナーに必要な基礎知識や技術を身につける。	1後期	64	4			○	○		○		
○			表現技法	画面に陰影や質感を感じる力を育む。実習を通してマチエールを作る技術や紙の加工技術、特性を身に付ける。	1後期	32	2			○	○		○		
○			自由制作	各学生が研究テーマを持ち、講師の指導のもと実践を伴う制作を行い、知識と技術を習得する。		32	2			○	○		○		
	○		グラフィックデザイン専攻	印刷に関わる基礎から始まり、実際に印刷の工程までを実体験し、また広告の概念から制作を学習する。	1後期	128	8			○			○	○	○
合計					9科目		448単位時間(28単位)			

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程ビジュアルデザイン学科グラフィックデザイン専攻) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			デザイン論	日本のデザインの始まりから、過去、現在を交差しデザインの考え方、手法、こだわりなどを検証し、市場調査や販売戦略の事例や新しい考え方を紹介しながら、媒体の在り方を考えて行く。	2前期	34	2	○			○	○			
○			就職対策	実践に即して、企業訪問、面接試験、就職用ポートフォリオ作成の指導を行う。	2前期	34	2	○			○	○			
○			ビジュアルデザイン	視覚的表現の中で、思いをイラスト化したり、マーク化や数値を分かり易くグラフ化し、より分かり易い視覚化を学ぶ。	2前期	68	4			○	○		○		
○			CG I	実践作業を中心にデザイナーとしての、より高いスキルと意識を身につける。イラストレーターやフォトショップの復習・応用。	2前期	68	4			○	○			○	
○			CG II	実践作業を中心にデザイナーとしての、より高いスキルと意識を身につける。イラストレーターやフォトショップの復習・応用。	2前期	68	4			○	○		○	○	
○			スキルアップ	表現技術や表現方法を反復し、作品をより良く見せるためのプレゼンテーションを学ぶ。	2前期	34	2			○	○		○		
	○		グラフィックデザイン専攻	企画・制作を基本に、企画に対しての市場調査、更に販売戦略の考え方を実践し、これからの広告や新しい媒体を考え、デザインの在り方を学ぶ。	2前期	170	10			○	○		○	○	○
合計					7科目	476単位時間(28単位)						

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程ビジュアルデザイン学科グラフィックデザイン専攻) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			卒業制作・企画	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	64	4			○	○	○	○		
○			卒業制作・制作	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	96	6			○	○	○	○		
○			卒業制作・演習	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	160	10			○	○	○	○		
○			卒業制作・作品	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	96	6			○	○	○	○		
○			卒業制作・スキルアップ	卒業制作の作品作りだけではなく、就職用のポートフォリオを充実させ、何時でも就職活動出来るよに作品制作。	2後期	32	2			○	○	○	○		
合計				5科目		448単位時間(28単位)						

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																										
専門学校札幌デザイナー学院		平成1年12月28日		澁谷 俊彦		〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-272-2800																										
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																										
学校法人北海道安達学園		平成1年11月28日		安達 保敏		〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-205-7600																										
分野		認定課程名		認定学科名		専門士		高度専門士																								
文化・教養		専門課程		ビジュアルデザイン学科 イラストレーション・キャラクターデザイン専攻(旧 イラストレーション専攻、キャラクターデザイン専攻)		平成6年文部科学省告示第八十四号																										
学科の目的		ベーシックデザインから始まり、デッサン、カラープランニングなどで基礎力を付け、現場に即した専攻授業で、実践力を育成。																														
認定年月日		平成26年03月31日																														
修業年限		昼夜		講義		演習		実習		実験		実技																				
2年		昼間		1848時間		200時間		0時間		1648時間		0時間																				
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内数)		専任教員数		兼任教員数		総教員数		単位時間																				
340人の内数		70人		1人		7人		5人		12人																						
学期制度		■前期:4月1日～9月24日 ■後期:9月25日～3月31日				成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 ABCDE(E=未習得)																								
長期休み		■学年始:4月1日～4月2日 ■夏季:7月25日～8月29日 ■冬季:12月19日～1月10日 ■学年末:2月10日～3月31日				卒業・進級条件		進級:出席率90%以上 単位習得85%以上 進級制作審査合格 卒業:出席率90%以上 単位習得85%以上 卒業制作審査合格																								
学修支援等		■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個別面談等の実施。				課外活動		■課外活動の種類 コンペなどへ自主的参加 ■サークル活動: 無																								
就職等の状況※2		■主な就職先・業界等(平成28年度卒業生) ジュリアジャパン、三浦印刷 他 ■就職指導内容 ホームルームの授業などで、就職に対する意識づけ、業界就職に対する正しい認識を指導 ■卒業生数 : 27 人 ■就職希望者数 : 20 人 ■就職者数 : 18 人 ■就職率 : 90 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 67 % ■その他 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)				主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ビジネス能力検定</td> <td>③</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>色彩検定</td> <td>③</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等					資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	ビジネス能力検定	③			色彩検定	③										
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																													
ビジネス能力検定	③																															
色彩検定	③																															
中途退学の現状		■中途退学者 5名 平成28年5月1日時点において、在学者66名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者61名(平成29年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、病気療養他 ■中退防止・中退者支援のための取組 カウンセリング、転専攻、転学科の実施。 学科担当教員が、日頃より学生とコミュニケーションを密にする。				■中退率 8%																										
経済的支援制度		■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 奨学生制度(試験奨学生、チャレンジ奨学生、高校既卒者・社会人奨学生)、AO特待生入学、縁故優遇制度、語学優遇制度、在校生表彰制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象外 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																														
第三者による学校評価		■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																														
当該学科のホームページURL		https://www.sdj.ac.jp/corse/visual/illust-character/																														

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

ビジュアルデザイン学科教育内容

① ベーシックデザイン、デッサン、カラープランニング、基礎CGは必修科目で、基礎力を育成

② 専攻授業で即戦力を養成するカリキュラム

③ 視覚伝達論やデザイン論で、幅広い教養科目

④ 就職に向け、ソーシャルコミュニケーションや就職対策でビジネス能力検定やマナー、面接などを学ぶ

上記の教育内容を企業等との連携により、必要となる最新の知識・技術・技能等を反映するため、企業等の意見を十分に活かし改善等計って行く

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程の編成にあたっては、教育課程編成委員会での審議を通して示された企業などの要請その他の情報・意見を十分に生かして実践的かつ専門的な職業教育を実施するにふさわしい教育課程の編成。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	1年更新	①
石黒 由紀夫	石黒工作所(有) 取締役	1年更新	③
澁谷 俊彦	専門学校札幌デザイナー学院 学校長		
立岡 好人	専門学校札幌デザイナー学院		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

② 学会や学術機関等の有識者

③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回 春、秋

(開催日時)

第1回 平成25年11月3日 10:00～11:30

第2回 平成26年2月7日 13:00～14:00

第3回 平成26年9月19日 10:00～11:30

第4回 平成27年2月26日 12:30～14:00

第5回 平成27年12月18日 12:30～13:30

第6回 平成28年5月19日 12:30～12:50

第7回 平成28年12月16日 12:05～12:15

第8回 平成29年10月20日 10:00～10:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。1、クラス担任制2、前後期・二期制3、1年次進級試験4、2年次卒業制作5、教員マニュアル6、学習案内作成

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

課題制作・打ち合わせ・発表を通し実作業の経験を繰り返し習得させる。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

教室内での打ち合わせ

実技指導

作品チェック

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
デッサン	デッサンの基礎の習得から構図やプロポーションなど、物の見方・影の捉え方について学ぶ。	フリーアーティスト 曾田 千夏

キャラクターデザイン 専攻	キャラクター製作に必要なコンセプトや設定を実習を通して習得する。必要に応じたキャラクターの描き分けなどを学ぶ。	株式会社ペイントモンスター 伊藤マーティ

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

連携企業の担当者とともに、関連団体のイベントや関連企業への現場訪問を通して、業界の情報収集や情報共有などで教員の資質の向上を図って行ゆく

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

北海道私立専修学校各種学校連合会主催 教員研修会(7月、12月)

マイナビ研修会(H29.5.25)

Jobカフェ北海道教員研修会(H29.5.31、H29.6.7)

② 指導力の修得・向上のための研修等

北海道私立専修学校各種学校連合会主催 教員研修会(7月、12月)

マイナビ研修会(H29.5.25)

Jobカフェ北海道教員研修会(H29.5.31、H29.6.7)

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

北海道私立専修学校各種学校連合会主催 教員研修会(7月、12月)

② 指導力の修得・向上のための研修等

北海道私立専修学校各種学校連合会主催 教員研修会(7月、12月)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会は学校法人北海道安達学園に位置付け、本法人の各学校に関係の深い企業等関連の方々を中心に、自己評価を基にご意見等を幅広くお聞きして、今後の教育活動や学校運営に反映させるべく法人全体に係る学校関係者評価を実施する

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか 1-2 学校の特色は適正か 1-3 学校の将来構想を抱いているか
(2) 学校運営	2-1 運営方針は定められているか 2-2 事業計画は定められているか 2-3 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-4 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-5 意思決定システムは確立されているか 2-6 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

(3)教育活動	3-1各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-2修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 3-3カリキュラムは体系的に編成されているか 3-4学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-5キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 3-6授業評価の実施・評価体制はあるか 3-7育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-8教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-9成績評価・単位認定の基準は明確になっているか
(4)学修成果	4-1就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか 4-2資格取得率の向上が図られているか 4-3退学率の低減が図られているか 4-4卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5)学生支援	5-1就職関する体制は整備されているか 5-2学生相談に関する体制は整備されているか 5-3学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 5-4学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5-5課外活動に対する支援体制は整備されているか 5-6学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-7保護者と適切に連携しているか 5-8卒業生への支援体制はあるか
(6)教育環境	6-1施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 6-2学科実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-3防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	7-1学生募集活動は、適正に行われているか 7-2学生募集において教育成果は正確に伝えられているか 7-3入学専攻は適性かつ公平な基準に基づき行われているか 7-4学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	8-38中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 8-39予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 8-40財務について会計監査が適正に行われているか 8-41財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	9-1法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-2個人情報に監視、その保護のための対策がとられているか 9-3自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-4自己点検・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	10-1学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 10-2学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11)国際交流	11-1グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会実施の意見として、自己評価に基づくことと了承。今後は、自己評価の課題を踏まえ、今後の改善等を計画的に検討し改善等を計り、各校・各学科に活用していくこととする

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年10月31日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	1年更新	企業等委員
松倉 大樹	株式会社きしだ Studio BACU CGIチーフディレクター	1年更新	企業等委員
原 大介	ユアンワークス 代表	1年更新	企業等委員
本間 裕也	北海道犬ぞり連盟 事務局長	1年更新	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
 (例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
 (公表方法:ホームページ 公表時期:平成29年11月中)

URL:https://www.sdg.ac.jp/top/wp-content/uploads/2016/09/P2015_SDG_20160301.pdf

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校が設定する情報項目に基づき、学校関係者へ幅広く情報を提供する

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・基本情報 ・開校の目的 ・沿革 ・教育方針
(2)各学科等の教育	・定員 ・各学科 教育理念・教育方針・教育内容(カリキュラム・目指す資格・行事)
(3)教職員	・教職員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取り組み ・実習・実技、企業連携等の紹介(インターンシップ等) ・就職支援の取り組み(キャリアセンター)
(5)様々な教育活動・教育環境	・校外実習 ・校外見学 ・学校設備状況 ・サークル活動等 ・海外研修
(6)学生の生活支援	・学生生活サポート
(7)学生納付金・修学支援	・学費 ・学費サポートシステム
(8)学校の財務	・消費収支計算書
(9)学校評価	・自己点検自己評価 ・学校関係者評価
(10)国際連携の状況	・国際交流・連携
(11)その他	・災害時非常時緊急時の対応

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

<https://www.sdg.ac.jp/%E6%83%85%E5%A0%B1%E5%85%AC%E9%96%8B/>

授業科目等の概要

(文化教養専門課程ビジュアルデザイン学科イラストレーション・キャラクターデザイン専攻) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			視覚伝達論	バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーションの有り方の違いなど、ビジュアルを主とするコミュニケーションの方法論を学ぶ。	1前期	34	2	○			○	○			
○			ソーシャル・コミュニケーション	社会人としての基本的なマナーやビジネス文書を学習。ビジネス能力検定のための学習も行う。	1前期	34	2	○			○	○			
○			ベーシックデザイン	デザインに必要な平面・空間構成の方法論を学び、あらゆるデザインワークに対応できるように基礎を学習する。	1前期	68	4			○	○		○		
○			デッサン	デッサンの基礎の習得から構図やプロポーションなど、物の見方・影の捉え方について学ぶ。	1前期	68	4			○	○			○	○
○			カラープランニング	道具の正しい使い方を演習を通じて習得し、平塗り、混色、イメージ配色へと発展させていく。	1前期	68	4			○	○		○		
○			CGI	イラストレーターやフォトショップのソフトを使用し、デザイナーに必要な基礎知識や技術を身につける。	1前期	68	4			○	○		○		
○			表現技法	画面に陰影や質感を感じる力を育む。実習を通してマチエールを作る技術や紙の加工技術、特性を身に付ける。	1前期	34	2			○	○		○		
	○		イラストレーション・キャラクターデザイン専攻	前期は技法の習得に重点を置くが、強調と省略によって特徴を引き出すこと。そしてフォトリアリズムイラストを描ききることに。	1前期	102	6			○	○		○	○	
合計					8科目	476単位時間(28単位)						

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程ビジュアルデザイン学科イラストレーション・キャラクターデザイン専攻) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			視覚伝達論	バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーションの有り方の違いなど、ビジュアルを主とするコミュニケーションの方法論を学ぶ。	1後期	32	2	○			○	○			
○			ソーシャル・コミュニケーション	社会人としての基本的なマナーやビジネス文書を学習。ビジネス能力検定のための学習も行う。	1後期	32	2	○			○	○			
○			ベーシックデザイン	デザインに必要な平面・空間構成の方法論を学び、あらゆるデザインワークに対応できるように基礎を学習する。	1後期	32	2			○	○		○		
○			デッサン	デッサンの基礎の習得から構図やプロポーションなど、物の見方・影の捉え方について学ぶ。	1後期	64	4			○	○			○	○
○			カラープランニング	道具の正しい使い方を演習を通じて習得し、平塗り、混色、イメージ配色へと発展させていく。	1後期	32	2			○	○		○		
○			CGI	イラストレーターやフォトショップのソフトを使用し、デザイナーに必要な基礎知識や技術を身につける。	1後期	64	4			○	○		○		
○			表現技法	画面に陰影や質感を感じる力を育む。実習を通してマチエールを作る技術や紙の加工技術、特性を身に付ける。	1後期	32	2			○	○		○		
○			自由制作	各学生が研究テーマを持ち、講師の指導のもと実践を伴う制作を行い、知識と技術を習得する。		32	2			○	○		○		
	○		イラストレーション・キャラクターデザイン専攻	印刷に関わる基礎から始まり、実際に印刷の工程までを実体験し、また広告の概念から制作を学習する。	1後期	128	8			○			○	○	
合計					9科目	448単位時間(28単位)						

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程ビジュアルデザイン学科イラストレーション専攻) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			デザイン論	日本のデザインの始まりから、過去、現在を交差しデザインの考え方、手法、こだわりなどを検証し、市場調査や販売戦略の事例や新しい考え方を紹介しながら、媒体の在り方を考えて行く。	2前期	34	2	○			○	○			
○			就職対策	実践に即して、企業訪問、面接試験、就職用ポートフォリオ作成の指導を行う。	2前期	34	2	○			○	○			
○			ビジュアルデザイン	視覚的表現の中で、思いをイラスト化したり、マーク化や数値を分かり易くグラフ化し、より分かり易い視覚化を学ぶ。	2前期	68	4			○	○		○		
○			CG I	実践作業を中心にデザイナーとしての、より高いスキルと意識を身につける。イラストレーターやフォトショップの復習・応用。	2前期	68	4			○	○		○	○	
○			CG II	実践作業を中心にデザイナーとしての、より高いスキルと意識を身につける。イラストレーターやフォトショップの復習・応用。	2前期	68	4			○	○		○	○	
○			スキルアップ	表現技術や表現方法を反復し、作品をより良く見せるためのプレゼンテーションを学ぶ。	2前期	34	2			○	○			○	
	○		イラストレーション専攻	クロッキーを習慣化することにより、今後分科するゲーム系、アニメ系、デザイン系、アート系進路への絵柄強化を図る。より応用的な材料に触れ、自分の表現の幅を広げる。	2前期	170	10			○	○		○	○	
合計			7科目		476単位時間(28単位)							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程ビジュアルデザイン学科イラストレーション専攻) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			卒業制作・企画	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	64	4			○	○	○	○		
○			卒業制作・制作	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	96	6			○	○	○	○		
○			卒業制作・演習	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	160	10			○	○	○	○		
○			卒業制作・作品	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	96	6			○	○	○	○		
○			卒業制作・スキルアップ	卒業制作の作品作りだけではなく、就職用のポートフォリオを充実させ、何時でも就職活動出来るよに作品制作。	2後期	32	2			○	○	○	○		
合計				5科目		448単位時間			(28単位)						

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程ビジュアルデザイン学科キャラクターデザイン専攻) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			デザイン論	日本のデザインの始まりから、過去、現在を交差しデザインの考え方、手法、こだわりなどを検証し、市場調査や販売戦略の事例や新しい考え方を紹介しながら、媒体の在り方を考えて行く。	2前期	34	2	○			○	○			
○			就職対策	実践に即して、企業訪問、面接試験、就職用ポートフォリオ作成の指導を行う。	2前期	34	2	○			○	○			
○			ビジュアルデザイン	視覚的表現の中で、思いをイラスト化したり、マーク化や数値を分かり易くグラフ化し、より分かり易い視覚化を学ぶ。	2前期	68	4			○	○		○		
○			CG I	実践作業を中心にデザイナーとしての、より高いスキルと意識を身につける。イラストレーターやフォトショップの復習・応用。	2前期	68	4			○	○		○	○	
○			CG II	実践作業を中心にデザイナーとしての、より高いスキルと意識を身につける。イラストレーターやフォトショップの復習・応用。	2前期	68	4			○	○		○	○	
○			スキルアップ	表現技術や表現方法を反復し、作品をより良く見せるためのプレゼンテーションを学ぶ。	2前期	34	2			○	○		○		
	○		キャラクターデザイン専攻	材料の幅を知ることでキャラクター表現に最適な画材を知る。実習を通してモデリング技術と立体感覚を身に付ける。	2前期	170	10			○	○		○	○	
合計				7科目		476単位時間(28単位)				

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程ビジュアルデザイン学科キャラクターデザイン専攻) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			卒業制作・企画	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	64	4			○	○	○	○		
○			卒業制作・制作	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	96	6			○	○	○	○		
○			卒業制作・演習	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	160	10			○	○	○	○		
○			卒業制作・作品	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	96	6			○	○	○	○		
○			卒業制作・スキルアップ	卒業制作の作品作りだけではなく、就職用のポートフォリオを充実させ、何時でも就職活動出来るよに作品制作。	2後期	32	2			○	○	○	○		
合計				5科目		448単位時間(28単位)						

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																									
専門学校札幌デザイナー学院		平成1年12月28日		澁谷 俊彦		〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-272-2800																									
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																									
学校法人北海道安達学園		平成1年11月28日		安達 保敏		〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-205-7600																									
分野		認定課程名		認定学科名		専門士		高度専門士																							
文化・教養		専門課程		インテリア学科 インテリアコーディネート専攻 (旧インテリアコーディネーター専攻)		平成6年文部科学省 告示第八十四号																									
学科の目的		ベーシックデザインから始まり、デッサン、カラープランニングなどで基礎力を付け、現場に即した専攻授業で、実践力を育成。																													
認定年月日		平成26年 3月 31日																													
修業年限		昼夜		講義		演習		実習		実験	実技																				
2年		1848時間		398時間		0時間		1450時間		0時間	0時間																				
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内数)		専任教員数		兼任教員数		総教員数																					
100人の内数		14人		0人		5人		3人		8人																					
学期制度		■前期:4月1日～9月24日 ■後期:9月25日～3月31日				成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 ABCDE(E=未習得)																							
長期休み		■学年始:4月1日～4月2日 ■夏季:7月25日～8月29日 ■冬季:12月19日～1月10日 ■学年末:2月10日～3月31日				卒業・進級条件		進級:出席率90%以上 単位習得85%以上 進級制作審査合格 卒業:出席率90%以上 単位習得85%以上 卒業制作審査合格																							
学修支援等		■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個別面談等の実施。				課外活動		■課外活動の種類 コンペなどへ自主的参加 ■サークル活動: 無																							
就職等の状況※2		■主な就職先・業界等(平成28年度卒業生) 沼田椅子製作所、アーネストワン 他 ■就職指導内容 ホームルームの授業などで、就職に対する意識づけ、業界就職に対する正しい認識を指導 ■卒業生数 : 6 人 ■就職希望者数 : 6 人 ■就職者数 : 6 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)				主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ビジネス実務検定</td> <td>③</td> <td>4人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>リビングスタイリスト</td> <td>③</td> <td>7人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>建築CAD</td> <td>③</td> <td>6人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>色彩検定</td> <td>③</td> <td>2人</td> <td>2人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	ビジネス実務検定	③	4人	2人	リビングスタイリスト	③	7人	3人	建築CAD	③	6人	3人	色彩検定	③	2人	2人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																												
ビジネス実務検定	③	4人	2人																												
リビングスタイリスト	③	7人	3人																												
建築CAD	③	6人	3人																												
色彩検定	③	2人	2人																												
中途退学の現状		■中途退学者 0名 平成28年5月1日時点において、在学者12名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者12名(平成29年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 カウンセリング、転専攻、転学科の実施。 学科担当教員が、日頃より学生とコミュニケーションを密にする。				■中退率 0%																									
経済的支援制度		■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 奨学生制度(試験奨学生、チャレンジ奨学生、高校既卒者・社会人奨学生)、AO特待生入学、縁故優遇制度、語学優遇制度、在校生表彰制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象外 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																													
第三者による学校評価		■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																													
当該学科のホームページURL		https://www.sdq.ac.jp/corse/interior/coordinate/																													

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

インテリア学科教育内容

①ベーシックデザイン、デッサン、ドローイング、基礎CADは必修科目で、基礎力を育成

②専攻授業で即戦力を養成するカリキュラム

③視覚伝達論やインテリア学で、幅広い教養科目

④就職に向け、ソーシャルコミュニケーションや就職対策でビジネス能力検定やマナー、面接などを学ぶ

上記の教育内容を企業等との連携により、必要となる最新の知識・技術・技能等を反映するため、企業等の意見を十分に活かし改善等計って行く。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程の編成にあたっては、教育課程編成委員会での審議を通じ示された企業等の要請その他の情報・意見を十分に活かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施するにふさわしい教育課程の編成に努めなければならない

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	1年更新	①
石黒 由紀夫	石黒工作所(有) 取締役	1年更新	③
澁谷 俊彦	専門学校札幌デザイナー学院 学校長		
立岡 好人	専門学校札幌デザイナー学院		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回 春、秋

(開催日時)

第1回 平成25年11月3日 13:20～14:50

第2回 平成26年2月7日 14:00～15:00

第3回 平成26年9月19日 10:00～11:30

第4回 平成27年2月26日 12:30～14:00

第5回 平成27年12月18日 12:30～13:30

第6回 平成28年5月19日 12:50～13:10

第7回 平成28年12月16日 12:05～12:15

第8回 平成29年10月20日 10:30～11:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。1、クラス担任制2、前後期・二期制3、1年次進級試験4、2年次卒業制作5、教員マニュアル6、学習案内作成

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

課題制作・打ち合わせ・発表を通し実作業の経験を繰り返し習得させる。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

教室内での打ち合わせ

実技指導

作品チェック

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
インテリアコーディネーター専攻	インテリアの各エレメントを適切に選択し、効果的にインテリアに生かすことと、マンションや戸建住宅のリフォームから使いやすさなどを提案していく。	(株)アトリエ樹 取締役 金山 美保子

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

連携企業の担当者とともに、関連団体のイベントや関連企業への現場訪問を通して、業界の情報収集や情報共有などで教員の資質の向上を図って行く

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

北海道私立専修学校各種学校連合会主催教員研修(7月、12月)

② 指導力の修得・向上のための研修等

北海道私立専修学校各種学校連合会主催 教員研修会(7月、12月)

マイナビ研修会(H29.5.25)

Jobカフェ北海道教員研修会(H29.5.31、H29.6.7)

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

北海道私立専修学校各種学校連合会主催 教員研修会(7月、12月)

② 指導力の修得・向上のための研修等

北海道私立専修学校各種学校連合会主催 教員研修会(7月、12月)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会は学校法人北海道安達学園に位置付け、本法人の各学校に関係の深い企業等関連の方々を中心に、自己評価を基にご意見等を幅広くお聞きして、今後の教育活動や学校運営に反映させるべく法人全体に係る学校関係者評価を実施する

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	1-1 理念・目的・育人人材像は定められているか 1-2 学校の特色は適正か 1-3 学校の将来構想を抱いているか
(2) 学校運営	2-1 運営方針は定められているか 2-2 事業計画は定められているか 2-3 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-4 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-5 意思決定システムは確立されているか 2-6 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

(3)教育活動	3-1各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-2修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 3-3カリキュラムは体系的に編成されているか 3-4学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-5キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 3-6授業評価の実施・評価体制はあるか 3-7育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-8教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-9成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-10資格取得の指導体制はあるか
(4)学修成果	4-1就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか 4-2資格取得率の向上が図られているか 4-3退学率の低減が図られているか 4-4卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5)学生支援	5-1就職関する体制は整備されているか 5-2学生相談に関する体制は整備されているか 5-3学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 5-4学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5-5課外活動に対する支援体制は整備されているか 5-6学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-7保護者と適切に連携しているか 5-8卒業生への支援体制はあるか
(6)教育環境	6-1施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 6-2学科実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-3防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	7-1学生募集活動は、適正に行われているか 7-2学生募集において教育成果は正確に伝えられているか 7-3入学専攻は適性かつ公平な基準に基づき行われているか 7-4学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	8-38中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 8-39予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 8-40財務について会計監査が適正に行われているか 8-41財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	9-1法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-2個人情報に監視、その保護のための対策がとられているか 9-3自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-4自己点検・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	10-1学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 10-2学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11)国際交流	11-1グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会実施の意見として、自己評価に基づくことと了承。今後は、自己評価の課題を踏まえ、今後の改善等を計画的に検討し改善等を計り、各校・各学科に活用していくこととする

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年10月31日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	1年更新	企業等委員
松倉 大樹	株式会社きしだ Studio BACU CGIチーフディレクター	1年更新	企業等委員
原 大介	ユアワークス 代表	1年更新	企業等委員
本間 裕也	北海道犬ぞり連盟 事務局長	1年更新	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
 (例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
 (公表方法:ホームページ 公表時期:平成29年11月中)

URL:https://www.sdg.ac.jp/top/wp-content/uploads/2016/09/P2015_SDG_20160301.pdf

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校が設定する情報項目に基づき、学校関係者へ幅広く情報を提供する

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	<ul style="list-style-type: none"> ・基本情報 ・開校の目的 ・沿革 ・教育方針
(2)各学科等の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・定員 ・各学科 教育理念・教育方針・教育内容(カリキュラム・目指す資格・行事)
(3)教職員	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育への取り組み ・実習・実技、企業連携等の紹介(インターンシップ等) ・就職支援の取り組み(キャリアセンター)
(5)様々な教育活動・教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・校外実習 ・校外見学 ・学校設備状況 ・サークル活動等 ・海外研修
(6)学生の生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学生生活サポート
(7)学生納付金・修学支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学費 ・学費サポートシステム
(8)学校の財務	<ul style="list-style-type: none"> ・消費収支計算書
(9)学校評価	<ul style="list-style-type: none"> ・自己点検自己評価 ・学校関係者評価
(10)国際連携の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流・連携
(11)その他	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時非常時緊急時の対応

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

<https://www.sdg.ac.jp/%E6%83%85%E5%A0%B1%E5%85%AC%E9%96%8B/>

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 インテリア学科インテリアコーディネート専攻) 平成29年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			視覚伝達論	バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーションの有り方の違いなど、ビジュアルを主とするコミュニケーションの方法論を学ぶ。	1前期	34	2	○			○	○				
○			ソーシャル・コミュニケーション	社会人としての基本的なマナーやビジネス文書を学習。ビジネス能力検定のための学習も行う。	1前期	34	2	○			○	○				
○			インテリア計画 I	単位空間を中心に機能的な寸法や計画の方法などインテリアを計画する上での基礎知識を学ぶ。	1前期	34	2	○			○	○				
○			インテリアエレメント	インテリアに関する商品・材料の基本的な知識と商品知識。そして、機能と空間の関わり方など基礎事項を項目ごとに学ぶ。	1前期	34	2	○			○	○				
○			リビングコミュニケーション	リビングスタイリストとして、インテリアをはじめとする住生活商品を買求める消費者に商品の魅力を説明出来、適切な提案を行うことができるスキルを学ぶ。	1前期	34	2	○			○			○		
○			ベーシックデザイン	造形の基本となる形態、造形美の原理などデザインの基本的理論・定理を建築やインテリアに照らし合わせ学び、演習を通して理解すると共にイメージ・発想力を強化し、デザインの基礎的な美的感性を鍛える。	1前期	34	2			○	○		△	○		
○			インテリアスケッチ	デッサンの基礎の習得から構図やプロポーションなど、物の見方・影の捉え方について学ぶ。	1前期	34	2			○	○		○			
○			プレゼンテーションテクニック I	課題作成を通して、イメージした空間を人に伝達するためのパース、アイソメなど表現技術を身につける。	1前期	34	2			○	○		○			
○			CAD I	CADソフトを使用し、設計製図を行う。CADの操作技術・表現技法を確実なものとし、即戦力を養う。	1前期	68	4			○	○		○			
○			ドローイング	立体を平面上で説明するための製図を手書きを中心に学習する。またデザインをまとめる為の正しい作業の流れを理解する。	1前期	68	4			○	○		○			
	○		インテリアコーディネート専攻 I	店舗デザインの基本となる商業空間の機能や役割を学び、商業施設デザイン課題制作を通して、プランニングをまとめる力を養う。	1前期	68	4			○	○			○	○	
合計					11科目					476単位時間(28単位)			

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
進級：出席率90%以上 単位取得85%以上 進級制作審査合格	1学年の学期区分	2期
卒業：出席率90%以上 出席率90%以上 単位取得85%以上 卒業制作審査合格 学費完納	1学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 インテリア学科インテリアコーディネート専攻) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			視覚伝達論	バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーションの有り方の違いなど、ビジュアルを主とするコミュニケーションの方法論を学ぶ。	1後期	32	2	○			○	○			
○			ソーシャル・コミュニケーション	社会人としての基本的なマナーやビジネス文書を学習。ビジネス能力検定のための学習も行う。	1後期	32	2	○			○	○			
○			インテリア計画Ⅰ	単位空間を中心に機能的な寸法や計画の方法などインテリアを計画する上での基礎知識を学ぶ。	1後期	32	2	○			○	○			
○			インテリアエレメント	インテリアに関する商品・材料の基本的な知識と商品知識。そして、機能と空間の関わり方など基礎事項を項目ごとに学ぶ。	1後期	32	2	○			○	○			
○			カラースキム	各分野に広く活用できる「理論に裏付けられた色彩の基本」を学ぶ。	1後期	32	2	○			○			○	
○			ベーシックデザイン	造形の基本となる形態、造形美の原理などデザインの基本的理論・定理を建築やインテリアに照らし合わせ学び、演習を通して理解すると共にイメージ・発想力を強化し、デザインの基礎的な美的感性を鍛える。	1後期	32	2				○	○			○
○			インテリアスケッチ	デッサンの基礎の習得から構図やプロポーションなど、物の見方・影の捉え方について学ぶ。	1後期	32	2				○	○		○	
○			プレゼンテーションテクニックⅠ	課題作成を通して、イメージした空間を人に伝達するためのパース、アイソメなど表現技術を身につける。	1後期	32	2				○	○		○	
○			CADⅠ	CADソフトを使用し、設計製図を行う。CADの操作技術・表現技法を確実なものとし、即戦力を養う。	1後期	64	4				○	○		○	
○			ドローイング	立体を平面で説明するための製図、及び透視図法など手書きを手書きを中心に学習する。またデザインをまとめる為の正しい作業の流れを理解する。	1後期	64	4				○	○		○	
	○		インテリアコーディネート専攻Ⅰ	店舗デザインの基本となる商業空間の機能や役割を学び、商業施設デザイン課題制作を通して、プランニングをまとめる力を養う。	1後期	64	4				○	○		○	○
合計					11科目	448単位時間(28単位)		

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
進級：出席率90%以上 単位取得85%以上 進級制作審査合格	1学年の学期区分	2期
卒業：出席率90%以上 出席率90%以上 単位取得85%以上 卒業制作審査合格 学費完納	1学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 インテリア学科インテリアコーディネーター専攻) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			就職対策	実践に即して、企業訪問、面接試験、就職用ポートフォリオ作成の指導を行う。	2 前期	34	2	○			○	○			
○			インテリア学Ⅱ	機能的な寸法や計画の方法など、機能と空間の関わり方など、インテリアを計画する上での基礎知識を学ぶ。	2 前期	34	2	○			○	○			
○			CADⅡ	3D-CADの基本的な操作技術・表現技法を学び、即戦力としての能力を身に付ける。	2 前期	68	4			○	○		○		
○			表現技法Ⅱ	インテリア業界で必要とされている、イラストレーター・フォトショップの基礎から応用を学び、プレゼンテーションに役立てる。	2 前期	68	4			○	○		○		
○			モデリング	主にスチレンボードを使用しての模型制作。基礎的な道具の使用方法や素材についての知識、制作の技術を学ぶ。	2 前期	68	4			○	○			○	
○			インテリアプランニング	課題作成を通して、イメージした空間を人に伝達するための作画・表現技術を身につける。	2 前期	34	2			○	○		○		
○			空間計画	実習課題作成を通して、材料と構造からイメージを高め、模型や図面に反映させる。	2 前期	34	2			○	○		○		
	○		インテリアコーディネーター専攻Ⅰ	図面での表現を基本としながら、模型やパース表現でのプレゼンテーション手法や構成、表現力を養う。	2 前期	68	4			○	○			○	○
	○		インテリアコーディネーター専攻Ⅱ	図面での表現を基本としながら、模型やパース表現でのプレゼンテーション手法や構成、表現力を養う。	2 前期	68	4			○	○		○		
合計					8科目	476単位時間(28単位)		

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
進級：出席率90%以上 単位取得85%以上 進級制作審査合格 卒業：出席率90%以上 出席率90%以上 単位取得85%以上 卒業制作審査合格 学費完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 インテリア学科インテリアコーディネーター専攻) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			卒業制作・企画	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	64	4			○	○		○	△	
○			卒業制作・制作	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	96	6			○	○		○	△	
○			卒業制作・演習	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	160	10			○	○		○	△	
○			卒業制作・作品	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	96	4			○	○		○	△	
○			卒業制作・スキルアップ	卒業制作の作品作りだけでなく、就職用のポートフォリオを充実させ、何時でも就職活動出来るよに作品制作。	2後期	32	2			○	○		○	△	
合計				9科目				448単位時間(28単位)				

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
進級：出席率90%以上 単位取得85%以上 進級制作審査合格 卒業：出席率90%以上 出席率90%以上 単位取得85%以上 卒業制作審査合格 学費完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																					
専門学校札幌デザイナー学院		平成1年12月28日		澁谷 俊彦		〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-272-2800																					
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																					
学校法人北海道安達学園		平成1年11月28日		安達 保敏		〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-205-7600																					
分野		認定課程名		認定学科名		専門士		高度専門士																			
文化・教養		専門課程		インテリア学科 インテリアデザイン専攻		平成6年文部科学省 告示第八十四号																					
学科の目的		ベーシックデザインから始まり、デッサン、カラープランニングなどで基礎力を付け、現場に即した専攻授業で、実践力を育成。																									
認定年月日		平成26年 3月 31日																									
修業年限		昼夜		講義		演習		実習		実験	実技																
2年		1848時間		398時間		0時間		1450時間		0時間	0時間																
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内数)		専任教員数		兼任教員数		総教員数																	
100人の内数		13人		1人		5人		3人		8人																	
学期制度		■前期:4月1日～9月24日 ■後期:9月25日～3月31日				成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 ABCDE(E=未習得)																			
長期休み		■学年始:4月1日～4月2日 ■夏季:7月25日～8月29日 ■冬季:12月19日～1月10日 ■学年末:2月10日～3月31日				卒業・進級条件		進級:出席率90%以上 単位習得85%以上 進級制作審査合格 卒業:出席率90%以上 単位習得85%以上 卒業制作審査合格																			
学修支援等		■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個別面談等の実施。				課外活動		■課外活動の種類 コンペなどへ自主的参加 ■サークル活動: 無																			
就職等の状況※2		■主な就職先・業界等(平成28年度卒業生) カンディハウス、匠工芸 他 ■就職指導内容 ホームルームの授業などで、就職に対する意識づけ、業界就職に対する正しい認識を指導 ■卒業生数 : 9 人 ■就職希望者数 : 6 人 ■就職者数 : 6 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 66 % ■その他 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)				主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ビジネス実務検定</td> <td>③</td> <td>7人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>リビングスタイリスト</td> <td>③</td> <td>7人</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>建築CAD検定</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>3人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	ビジネス実務検定	③	7人	6人	リビングスタイリスト	③	7人	5人	建築CAD検定	③	9人	3人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																								
ビジネス実務検定	③	7人	6人																								
リビングスタイリスト	③	7人	5人																								
建築CAD検定	③	9人	3人																								
中途退学の現状		■中途退学者 0名 平成28年5月1日時点において、在学者16名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者16名(平成29年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 カウンセリング、転専攻、転学科の実施。 学科担当教員が、日頃より学生とコミュニケーションを密にする。				■中退率 8%																					
経済的支援制度		■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 奨学生制度(試験奨学生、チャレンジ奨学生、高校既卒者・社会人奨学生)、AO特待生入学、縁故優遇制度、語学優遇制度、在校生表彰制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 給付者なし																									
第三者による学校評価																											
当該学科のホームページURL		https://www.sdq.ac.jp/corse/interior/design/																									

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

インテリア学科教育内容

①ベーシックデザイン、デッサン、ドローイング、基礎CADは必修科目で、基礎力を育成

②専攻授業で即戦力を養成するカリキュラム

③視覚伝達論やインテリア学で、幅広い教養科目

④就職に向け、ソーシャルコミュニケーションや就職対策でビジネス能力検定やマナー、面接などを学ぶ

上記の教育内容を企業等との連携により、必要となる最新の知識・技術・技能等を反映するため、企業等の意見を十分に活かし改善等計って行く。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程の編成にあたっては、教育課程編成委員会での審議を通じ示された企業等の要請その他の情報・意見を十分に活かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施するにふさわしい教育課程の編成に努めなければならない

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	1年更新	①
石黒 由紀夫	石黒工作所(有) 取締役	1年更新	③
澁谷 俊彦	専門学校札幌デザイナー学院 学校長		
立岡 好人	専門学校札幌デザイナー学院		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回 春、秋

(開催日時)

第1回 平成25年11月3日 13:20～14:50

第2回 平成26年2月7日 14:00～15:00

第3回 平成26年9月19日 10:00～11:30

第4回 平成27年2月26日 12:30～14:00

第5回 平成27年12月18日 12:30～13:30

第6回 平成28年5月19日 12:50～13:10

第7回 平成28年12月16日 12:05～12:15

第8回 平成29年10月20日 10:30～11:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。1、クラス担任制2、前後期・二期制3、1年次進級試験4、2年次卒業制作5、教員マニュアル6、学習案内作成

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

課題制作・打ち合わせ・発表を通し実作業の経験を繰り返し習得させる。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

教室内での打ち合わせ

実技指導

作品チェック

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
インテリアデザイン専攻	専用住宅の単位空間を中心に機能的な寸法や計画の方法など住宅を計画する上での基礎知識を習得する	米川建築設計事務所 主宰 米川 雅喜

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

年2回以上の最新の情報を享受できる研修に参加する。
技術研修・教員能力研修など

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等
北海道私立専修学校各種学校連合会主催 教員研修会(7月、12月)
マイナビ研修会(H29.5.25)
Jobカフェ北海道教員研修会(H29.5.31、H29.6.7)

② 指導力の修得・向上のための研修等
北海道私立専修学校各種学校連合会主催 教員研修会(7月、12月)
マイナビ研修会(H29.5.25)
Jobカフェ北海道教員研修会(H29.5.31、H29.6.7)

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等
北海道私立専修学校各種学校連合会主催 教員研修会(7月、12月)

② 指導力の修得・向上のための研修等
北海道私立専修学校各種学校連合会主催 教員研修会(7月、12月)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会は学校法人北海道安達学園に位置付け、本法人の各学校に関係の深い企業等関連の方々を中心に、自己評価を基にご意見等を幅広くお聞きして、今後の教育活動や学校運営に反映させるべく法人全体に係る学校関係者評価を実施する

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	1-1 理念・目的・育人人材像は定められているか 1-2 学校の特色は適正か 1-3 学校の将来構想を抱いているか
(2) 学校運営	2-1 運営方針は定められているか 2-2 事業計画は定められているか 2-3 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-4 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-5 意思決定システムは確立されているか 2-6 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

(3)教育活動	3-1各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-2修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 3-3カリキュラムは体系的に編成されているか 3-4学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-5キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 3-6授業評価の実施・評価体制はあるか 3-7育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-8教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-9成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-10資格取得の指導体制はあるか
(4)学修成果	4-1就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られている 4-2資格取得率の向上が図られているか 4-3退学率の低減が図られているか 4-4卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5)学生支援	5-1就職関する体制は整備されているか 5-2学生相談に関する体制は整備されているか 5-3学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 5-4学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5-5課外活動に対する支援体制は整備されているか 5-6学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-7保護者と適切に連携しているか 5-8卒業生への支援体制はあるか
(6)教育環境	6-1施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 6-2学科実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-3防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	7-1学生募集活動は、適正に行われているか 7-2学生募集において教育成果は正確に伝えられているか 7-3入学専攻は適性かつ公平な基準に基づき行われているか 7-4学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	8-38中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 8-39予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 8-40財務について会計監査が適正に行われているか 8-41財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	9-1法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-2個人情報に監視、その保護のための対策がとられているか 9-3自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-4自己点検・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	10-1学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 10-2学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11)国際交流	11-1グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会実施の意見として、自己評価に基づくことと了承。今後は、自己評価の課題を踏まえ、今後の改善等を計画的に検討し改善等を計り、各校・各学科に活用していくこととする

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年10月31日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	平成25年4月1日～	企業等委員
松倉 大樹	株式会社きしだ Studio BACU CGIチーフディレクター	平成25年4月1日～	企業等委員
原 大介	ユアワークス 代表	平成25年4月1日～	企業等委員
本間 裕也	北海道犬ぞり連盟 事務局長	平成25年4月1日～	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
 (例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
 (公表方法:ホームページ 公表時期:平成29年11月中)

URL:https://www.sdg.ac.jp/top/wp-content/uploads/2016/09/P2015_SDG_20160301.pdf

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校が設定する情報項目に基づき、学校関係者へ幅広く情報を提供する

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	<ul style="list-style-type: none"> ・基本情報 ・開校の目的 ・沿革 ・教育方針
(2)各学科等の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・定員 ・各学科 教育理念・教育方針・教育内容(カリキュラム・目指す資格・行事)
(3)教職員	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育への取り組み ・実習・実技、企業連携等の紹介(インターンシップ等) ・就職支援の取り組み(キャリアセンター)
(5)様々な教育活動・教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・校外実習 ・校外見学 ・学校設備状況 ・サークル活動等 ・海外研修
(6)学生の生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学生生活サポート
(7)学生納付金・修学支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学費 ・学費サポートシステム
(8)学校の財務	<ul style="list-style-type: none"> ・消費収支計算書
(9)学校評価	<ul style="list-style-type: none"> ・自己点検自己評価 ・学校関係者評価
(10)国際連携の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流・連携
(11)その他	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時非常時緊急時の対応

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

<https://www.sdg.ac.jp/%E6%83%85%E5%A0%B1%E5%85%AC%E9%96%8B/>

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 インテリア学科インテリアデザイン専攻) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			視覚伝達論	バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーションの有り方の違いなど、ビジュアルを主とするコミュニケーションの方法論を学ぶ。	1前期	34	2	○			○	○			
○			ソーシャル・コミュニケーション	社会人としての基本的なマナーやビジネス文書を学習。ビジネス能力検定のための学習も行う。	1前期	34	2	○			○	○			
○			インテリア計画Ⅰ	単位空間を中心に機能的な寸法や計画の方法などインテリアを計画する上での基礎知識を学ぶ。	1前期	34	2	○			○	○			
○			インテリアエレメント	インテリアに関する商品・材料の基本的な知識と商品知識。そして、機能と空間の関わり方など基礎事項を項目ごとに学ぶ。	1前期	34	2	○			○	○			
○			リビングコミュニケーション	リビングスタイリストとして、インテリアをはじめとする住生活商品を買求める消費者に商品の魅力を説明出来、適切な提案を行うことができるスキルを学ぶ。	1前期	34	2	○			○			○	
○			ベーシックデザイン	造形の基本となる形態、造形美の原理などデザインの基本的理論・定理を建築やインテリアに照らし合わせ学び、演習を通して理解すると共にイメージ・発想力を強化し、デザインの基礎的な美的感性を鍛える。	1前期	34	2				○	○	△	○	
○			インテリアスケッチ	デッサンの基礎の習得から構図やプロポーションなど、物の見方・影の捉え方について学ぶ。	1前期	34	2				○	○	○		
○			プレゼンテーションテクニックⅠ	課題作成を通して、イメージした空間を人に伝達するためのパース、アイソメなど表現技術を身につける。	1前期	34	2				○	○	○		
○			CADⅠ	CADソフトを使用し、設計製図を行う。CADの操作技術・表現技法を確実なものとし、即戦力を養う。	1前期	68	4				○	○	○		
○			ドローイング	立体を平面で説明するための製図を手書きを中心に学習する。またデザインをまとめる為の正しい作業の流れを理解する。	1前期	68	4				○	○	○		
	○		インテリアデザイン専攻Ⅰ	店舗デザインの基本となる商業空間の機能や役割を学び、商業施設デザイン課題制作を通して、プランニングをまとめる力を養う。	1前期	68	4				○	○		○ ○	
合計					11科目		476単位時間(28単位)			

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
進級：出席率90%以上 単位取得85%以上 進級制作審査合格	1学年の学期区分	2期
卒業：出席率90%以上 出席率90%以上 単位取得85%以上 卒業制作審査合格 学費完納	1学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 インテリア学科インテリアデザイン専攻) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			視覚伝達論	バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーションの有り方の違いなど、ビジュアルを主とするコミュニケーションの方法論を学ぶ。	1後期	32	2	○			○	○			
○			ソーシャル・コミュニケーション	社会人としての基本的なマナーやビジネス文書を学習。ビジネス能力検定のための学習も行う。	1後期	32	2	○			○	○			
○			インテリア計画Ⅰ	単位空間を中心に機能的な寸法や計画の方法などインテリアを計画する上での基礎知識を学ぶ。	1後期	32	2	○			○	○			
○			インテリアエレメント	インテリアに関する商品・材料の基本的な知識と商品知識。そして、機能と空間の関わり方など基礎事項を項目ごとに学ぶ。	1後期	32	2	○			○	○			
○			カラースキム	各分野に広く活用できる「理論に裏付けられた色彩の基本」を学ぶ。	1後期	32	2	○			○		○		
○			ベーシックデザイン	造形の基本となる形態、造形美の原理などデザインの基本的理論・定理を建築やインテリアに照らし合わせ学び、演習を通して理解すると共にイメージ・発想力を強化し、デザインの基礎的な美的感性を鍛える。	1後期	32	2				○	○		○	
○			インテリアスケッチ	デッサンの基礎の習得から構図やプロポーションなど、物の見方・影の捉え方について学ぶ。	1後期	32	2				○	○	○		
○			プレゼンテーションテクニックⅠ	課題作成を通して、イメージした空間を人に伝達するためのパース、アイソメなど表現技術を身につける。	1後期	32	2				○	○	○		
○			CADⅠ	CADソフトを使用し、設計製図を行う。CADの操作技術・表現技法を確実なものとし、即戦力を養う。	1後期	64	4				○	○	○		
○			ドローイング	立体を平面で説明するための製図、及び透視図法など手書きを中心として学習する。またデザインをまとめる為の正しい作業の流れを理解する。	1後期	64	4				○	○	○		
	○		インテリアデザイン専攻Ⅰ	店舗デザインの基本となる商業空間の機能や役割を学び、商業施設デザイン課題制作を通して、プランニングをまとめる力を養う。	1後期	64	4				○	○		○ ○	
合計					11科目	448単位時間(28単位)			

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
進級：出席率90%以上 単位取得85%以上 進級制作審査合格	1学年の学期区分	2期
卒業：出席率90%以上 出席率90%以上 単位取得85%以上 卒業制作審査合格 学費完納	1学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 インテリア学科インテリアデザイン専攻) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			就職対策	実践に即して、企業訪問、面接試験、就職用ポートフォリオ作成の指導を行う。	2前期	34	2	○			○		○		
○			インテリア学Ⅱ	機能的な寸法や計画の方法など、機能と空間の関わり方など、インテリアを計画する上での基礎知識を学ぶ。	2前期	34	2	○			○		○		
○			CADⅡ	3D-CADの基本的な操作技術・表現技法を学び、即戦力としての能力を身に付ける。	2前期	68	4			○	○		○		
○			表現技法Ⅱ	インテリア業界で必要とされている、イラストレーター・フォトショップの基礎から応用を学び、プレゼンテーションに役立てる。	2前期	68	4			○	○		○		
○			モデリング	主にスチレンボードを使用しての模型制作。基礎的な道具の使用法や素材についての知識、制作の技術を学ぶ。	2前期	68	4			○	○			○	
○			インテリアプランニング	課題作成を通して、イメージした空間を人に伝達するための作画・表現技術を身につける。	2前期	34	2			○	○		○		
○			空間計画	実習課題作成を通して、材料と構造からイメージを高め、模型や図面に反映させる。	2前期	34	2			○	○		○		
	○		インテリアデザイン専攻Ⅰ	図面での表現を基本としながら、模型やパース表現でのプレゼンテーション手法や構成、表現力を養う。	2前期	68	4			○	○			○	○
	○		インテリアデザイン専攻Ⅱ	図面での表現を基本としながら、模型やパース表現でのプレゼンテーション手法や構成、表現力を養う。	2前期	68	4			○	○		○		
合計				8科目	476単位時間(28単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
進級：出席率90%以上 単位取得85%以上 進級制作審査合格 卒業：出席率90%以上 出席率90%以上 単位取得85%以上 卒業制作審査合格 学費完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 インテリア学科インテリアデザイン専攻) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			卒業制作・企画	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	64	4			○	○		○	△	○
○			卒業制作・制作	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	96	6			○	○		○	△	○
○			卒業制作・演習	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	160	10			○	○		○	△	○
○			卒業制作・作品	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	96	4			○	○		○	△	○
○			卒業制作・スキルアップ	卒業制作の作品作りだけではなく、就職用のポートフォリオを充実させ、何時でも就職活動出来るよに作品制作。	2後期	32	2			○	○		○	△	○
合計				9科目						448単位時間(28単位)			

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
進級：出席率90%以上 単位取得85%以上 進級制作審査合格	1学年の学期区分	2期
卒業：出席率90%以上 出席率90%以上 単位取得85%以上 卒業制作審査合格 学費完納	1学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地																
専門学校札幌デザイナー学院		平成1年12月28日	澁谷 俊彦		〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-272-2800																
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地																
学校法人北海道安達学園		平成1年11月28日	安達 保敏		〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-205-7600																
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士															
文化・教養	専門課程	ファッション学科 ファッションデザイン専攻			平成6年文部科学省 告示第八十四号																
学科の目的	ベーシックデザインから始まり、デッサン、カラープランニングなどで基礎力を付け、現場に即した専攻授業で、実践力を育成。																				
認定年月日	平成26年 3月 31日																				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技														
	2年 昼間		1848時間	334時間	0時間	1514時間	0時間	0時間													
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数															
120人の内数		15人	1人	6人	5人	11人															
学期制度	■前期:4月1日～9月24日 ■後期:9月25日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 ABCDE(E=未習得)																
長期休み	■学年始:4月1日～4月2日 ■夏季:7月25日～8月29日 ■冬季:12月19日～1月10日 ■学年末:2月10日～3月31日			卒業・進級 条件	進級:出席率90%以上 単位習得85%以上 進級制作審査合格 卒業:出席率90%以上 単位習得85%以上 卒業制作審査合格																
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個別面談等の実施。			課外活動	■課外活動の種類 コンペなどへ自主的参加 ■サークル活動: 無																
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(平成28年度卒業生) オンワード樫山、フォルムアイ 他			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業者に関する平成29年5月1日時点の情報)																
	■就職指導内容 ホームルームの授業などで、就職に対する意識づけ、業界 就職に対する正しい認識を指導				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>パターンメイキング</td> <td>③</td> <td>4人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>ファッションビジネス 能力検定</td> <td>③</td> <td>7人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	パターンメイキング	③	4人	0人	ファッションビジネス 能力検定	③	7人	2人		
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																		
パターンメイキング	③	4人	0人																		
ファッションビジネス 能力検定	③	7人	2人																		
就職等の 状況※2		■卒業者数: 7人 ■就職希望者数: 7人 ■就職者数: 6人 ■就職率: 85% ■卒業者に占める就職者の割合: 85% ■その他: (平成28年度卒業者に関する 平成29年5月1日 時点の情報)			※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当する か記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等																
中途退学 の現状	■中途退学者 1名 平成28年5月1日時点において、在学者12名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者31名(平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の原因 学修意欲低下 ■中退防止・中退者支援のための取組 カウンセリング、転専攻、転学科の実施。 学科担当教員が、日頃より学生とコミュニケーションを密にする。			■中退率 8%																	
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 奨学生制度(試験奨学生、チャレンジ奨学生、高校既卒者・社会人奨学生)、AO特待生入学、縁故優遇制度、語学優遇制度、在校生表彰 制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象外 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																				
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																				
当該学科の ホームページ URL	https://www.sdg.ac.jp/corse/fashion/design/																				

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

ファッション学科教育内容

① ベーシックデザイン、デッサン、ファッション造形、基礎CGは必修科目で、基礎力を育成

② 専攻授業で即戦力を養成するカリキュラム

③ 視覚伝達論やファッション論で、幅広い教養科目

④ 就職に向け、ソーシャルコミュニケーションや就職対策でビジネス能力検定やマナー、面接などを学ぶ

上記の教育内容を企業等との連携により、必要となる最新の知識・技術・技能等を反映するため、企業等の意見を十分に活かし改善等計って行く。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程の編成にあたっては、教育課程編成委員会での審議を通じ示された企業等の要請その他の情報・意見を十分に活かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施するにふさわしい教育課程の編成に努めなければならない

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	1年更新	①
石黒 由紀夫	石黒工作所(有) 取締役	1年更新	③
澁谷 俊彦	専門学校札幌デザイナー学院 学校長		
立岡 好人	専門学校札幌デザイナー学院		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

② 学会や学術機関等の有識者

③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回 春、秋

(開催日時)

第1回 平成25年11月3日 15:00～16:30

第2回 平成26年2月7日 15:00～16:00

第3回 平成26年9月19日 10:00～11:30

第4回 平成27年2月26日 12:30～14:00

第5回 平成27年12月18日 12:30～13:30

第6回 平成28年5月19日 13:10～13:30.

第7回 平成28年12月16日 12:15～12:35

第8回 平成29年10月20日 11:00～11:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。1、クラス担任制2、前後期・二期制3、1年次進級試験4、2年次卒業制作5、教員マニュアル6、学習案内作成

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

課題制作・打ち合わせ・発表を通し実作業の経験を繰り返し習得させる。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

教室内での打ち合わせ

実技指導

作品チェック

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ファッション造形	衣装制作を通じて、ファッションショーや作品発表に於ける様々な表現ツールを制作	フリーデザイナー 安楽 恵子

ファッションイラスト	デッサンを通じた作品完成予想の視覚伝達方法の学習する	フリーデザイナー 安楽 恵子

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

連携企業の担当者とともに、関連団体のイベントや関連企業への現場訪問を通して、業界の情報収集や情報共有などで教員の資質の向上を図って行く

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等
 北海道私立専修学校各種学校連合会主催 教員研修会(7月、12月)
 マイナビ研修会(H29.5.25)
 Jobカフェ北海道教員研修会(H29.5.31、H29.6.7)

② 指導力の修得・向上のための研修等
 北海道私立専修学校各種学校連合会主催 教員研修会(7月、12月)
 マイナビ研修会(H29.5.25)
 Jobカフェ北海道教員研修会(H29.5.31、H29.6.7)

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等
 北海道私立専修学校各種学校連合会主催 教員研修会(7月、12月)

② 指導力の修得・向上のための研修等
 北海道私立専修学校各種学校連合会主催 教員研修会(7月、12月)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会は学校法人北海道安達学園に位置付け、本法人の各学校に関係の深い企業等関連の方々を中心に、自己評価を基にご意見等を幅広くお聞きして、今後の教育活動や学校運営に反映させるべく法人全体に係る学校関係者評価を実施する

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	1-1 理念・目的・育人人材像は定められているか 1-2 学校の特色は適正か 1-3 学校の将来構想を抱いているか
(2) 学校運営	2-1 運営方針は定められているか 2-2 事業計画は定められているか 2-3 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-4 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-5 意思決定システムは確立されているか 2-6 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

(3)教育活動	3-1各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-2修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 3-3カリキュラムは体系的に編成されているか 3-4学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-5キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 3-6授業評価の実施・評価体制はあるか 3-7育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-8教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-9成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-10資格取得の指導体制はあるか
(4)学修成果	4-1就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか 4-2資格取得率の向上が図られているか 4-3退学率の低減が図られているか 4-4卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5)学生支援	5-1就職関する体制は整備されているか 5-2学生相談に関する体制は整備されているか 5-3学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 5-4学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5-5課外活動に対する支援体制は整備されているか 5-6学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-7保護者と適切に連携しているか 5-8卒業生への支援体制はあるか
(6)教育環境	6-1施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 6-2学科実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-3防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	7-1学生募集活動は、適正に行われているか 7-2学生募集において教育成果は正確に伝えられているか 7-3入学専攻は適性かつ公平な基準に基づき行われているか 7-4学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	8-38中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 8-39予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 8-40財務について会計監査が適正に行われているか 8-41財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	9-1法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-2個人情報に監視、その保護のための対策がとられているか 9-3自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-4自己点検・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	10-1学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 10-2学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11)国際交流	11-1グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会実施の意見として、自己評価に基づくことと了承。今後は、自己評価の課題を踏まえ、今後の改善等を計画的に検討し改善等を計り、各校・各学科に活用していくこととする

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年10月31日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	1年更新	企業等委員
松倉 大樹	株式会社きしだ Studio BACU CGIチーフディレクター	1年更新	企業等委員
原 大介	ユアワークス 代表	1年更新	企業等委員
本間 裕也	北海道犬ぞり連盟 事務局長	1年更新	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
 (例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
 (公表方法:ホームページ 公表時期:平成29年11月中)

URL:https://www.sdg.ac.jp/top/wp-content/uploads/2016/09/P2015_SDG_20160301.pdf

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校が設定する情報項目に基づき、学校関係者へ幅広く情報を提供する

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	<ul style="list-style-type: none"> ・基本情報 ・開校の目的 ・沿革 ・教育方針
(2)各学科等の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・定員 ・各学科 教育理念・教育方針・教育内容(カリキュラム・目指す資格・行事)
(3)教職員	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育への取り組み ・実習・実技、企業連携等の紹介(インターンシップ等) ・就職支援の取り組み(キャリアセンター)
(5)様々な教育活動・教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・校外実習 ・校外見学 ・学校設備状況 ・サークル活動等 ・海外研修
(6)学生の生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学生生活サポート
(7)学生納付金・修学支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学費 ・学費サポートシステム
(8)学校の財務	<ul style="list-style-type: none"> ・消費収支計算書
(9)学校評価	<ul style="list-style-type: none"> ・自己点検自己評価 ・学校関係者評価
(10)国際連携の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流・連携
(11)その他	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時非常時緊急時の対応

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

<https://www.sdg.ac.jp/%E6%83%85%E5%A0%B1%E5%85%AC%E9%96%8B/>

授業科目等の概要

(文化教養専門課程ファッション学科ファッションデザイン専攻) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			視覚伝達論	バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーションの有り方の違いなど、ビジュアルを主とするコミュニケーションの方法論を学ぶ。	1前期	34	2	○			○		○		
○			ソーシャル・コミュニケーション	社会人としての基本的なマナーやビジネス文書を学習。ビジネス能力検定のための学習も行う。	1前期	34	2	○			○		○		
○			ベーシックデザイン	デザインの基礎となる色彩感覚を養うと同時に、色彩検定の対策も行う。	1前期	34	2			○	○			○	
○			ファッションイラスト	デッサンを通じた作品完成予想の視覚伝達方法の学習する。	1前期	34	2			○	○			○ ○	
○			ファッション造形	衣装制作を通じて、ファッションショーや作品発表に於ける様々な表現ツールを制作。	1前期	68	4			○	○			○ ○	
○			ヘアメイク	ファッションやTPOに合わせたメイクアップ基礎とファッションイベント等に対応出来る美容テクニックを学習する。	1前期	34	2			○	○			○	
○			ファッション知識	ファッションビジネスを理解し、デザインの考え方や発想方法を学ぶ。	1前期	34	2	○			○		○		
○			CG	コンピューターの基礎から、イラストレーター・フォトショップを中心に、技術・表現方法を学ぶ。	1前期	34	2			○	○			○	
○			プレゼンテーション	作品や技術をより良く見せるためのプレゼンテクニックを学ぶ。	1前期	34	2			○	○			○	
	○		ファッションデザイン専攻	ファッションデザインの考え方を理解し、1つのブランドを構築する方法を学ぶ。	1前期	136	8			○	○			○	
合計			10 科目		476単位時間(28 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程ファッション学科ファッションデザイン専攻) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			視覚伝達論	バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーションの有り方の違いなど、ビジュアルを主とするコミュニケーションの方法論を学ぶ。	1後期	32	2	○			○		○		
○			ソーシャル・コミュニケーション	社会人としての基本的なマナーやビジネス文書を学習。ビジネス能力検定のための学習も行う。	1後期	32	2	○			○		○		
○			ベーシックデザイン	デザインの基礎となる色彩感覚を養うと同時に、色彩検定の対策も行う。	1後期	32	2				○	○			○
○			ファッションイラスト	デッサンを通じた作品完成予想の視覚伝達方法の学習する。	1後期	32	2				○	○			○
○			ファッション造形	衣装制作を通じて、ファッションショーや作品発表に於ける様々な表現ツールを制作。	1後期	64	4				○	○			○
○			ヘアメイク	ファッションやTPOに合わせたメイクアップ基礎とファッションイベント等に対応出来る美容テクニックを学習する。	1後期	32	2				○	○			○
○			ファッション知識	ファッションビジネスを理解し、デザインの考え方や発想方法を学ぶ。	1後期	32	2	○			○			○	
○			CG	コンピューターの基礎から、イラストレーター・フォトショップを中心に、技術・表現方法を学ぶ。	1後期	32	2				○	○			○
○			プレゼンテーション	作品や技術をより良く見せるためのプレゼンテクニックを学ぶ。	1後期	32	2				○	○			○
	○		ファッションデザイン専攻	ファッションデザインの考え方を理解し、1つのブランドを構築する方法を学ぶ。	1後期	128	8				○	○			○
合計			11 科目		448 単位時間			(28 単位)							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	18週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程ファッションビューティー学科ファッションデザイン専攻) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			デザイン論	ファッションの歴史を学び、デザインとの関わりを学ぶ。	2前期	34	2	○			○		○		
○			就職対策	実践に即して、企業訪問、面接試験、就職用ポートフォリオ作成の指導を行う。	2前期	34	2	○			○		○		
○			ファッション造形	衣装制作を通じて、ファッションショーや作品発表に於ける様々な表現ツールを制作。	2前期	68	4			○	○			○	○
○			ファッション知識	業界研究や、必要とされる計数などについて学び、業界への理解を深める	2前期	68	4	○			○		○		
○			CG	実践作業を中心に、より高いスキルと意識を身につける。イラストレーターやフォトショップの復習・応用。	2前期	68	4			○	○		○		
○			プレゼンテーション	表現技術や表現方法を反復し、作品をより良く見せるためのプレゼンテーションを学ぶ。	2前期	68	4			○	○		○	△	
	○		ファッションデザイン専攻	ファッションの衣装制作を通じて、1年次の応用と高い技術を身につける。	2前期	136	8			○	○			○	
合計						7	科目	476			単位時間(28)		単位		

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	18週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程ファッションビューティー学科ファッションデザイン専攻) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			卒業制作・企画	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	64	4			○	○		○	△	
○			卒業制作・制作	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	96	6			○	○		○	△	
○			卒業制作・演習	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	128	10			○	○		○	△	
○			卒業制作・作品	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	96	4			○	○		○	△	
○			就職対策	実践に即して、企業訪問、面接試験、就職用ポートフォリオ作成の指導を行う。	2後期	32	2			○	○		○	△	
○			卒業制作・スキルアップ	卒業制作の作品作りだけではなく、就職用のポートフォリオを充実させ、何時でも就職活動出来るよに作品制作。	2後期	32	2			○	○		○		
合計						6	科目	448単位時間(28		単位)		

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地																			
専門学校札幌デザイナー学院		平成1年12月28日	澁谷 俊彦	〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-272-2800																			
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地																			
学校法人北海道安達学園		平成1年11月28日	安達 保敏	〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-205-7600																			
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																		
文化・教養	専門課程	ファッション学科 ファッションビジネス専攻 (旧 ファッションアドバイザー専攻)		平成6年文部科学省 告示第八十四号																			
学科の目的	ベーシックデザインから始まり、デッサン、カラープランニングなどで基礎力を付け、現場に即した専攻授業で、実践力を育成。																						
認定年月日	平成26年 3月 31日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
2年	昼間	1848時間	334時間	0時間	1514時間	0時間	0時間																
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																	
120人の内数		14人	0人	4人	6人	10人																	
学期制度	■前期:4月1日～9月24日 ■後期:9月25日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 ABCDE(E=未習得)																		
長期休み	■学年始:4月1日～4月2日 ■夏季:7月25日～8月29日 ■冬季:12月19日～1月10日 ■学年末:2月10日～3月31日			卒業・進級条件	進級:出席率90%以上 単位習得85%以上 進級制作審査合格 卒業:出席率90%以上 単位習得85%以上 卒業制作審査合格																		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個別面談等の実施。			課外活動	■課外活動の種類 コンペなどへ自主的参加 ■サークル活動: 無																		
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成28年度卒業生) サマンサタバサ、アーバンリサーチ 他 ■就職指導内容 ホームルームの授業などで、就職に対する意識づけ、業界就職に対する正しい認識を指導 ■卒業生数: 8 人 ■就職希望者数: 8 人 ■就職者数: 8 人 ■就職率: 100 % ■卒業者に占める就職者の割合: 100 % ■その他 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)																		
				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ファッションビジネス検定</td> <td>③</td> <td>6人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>ファッション販売能力検定</td> <td>③</td> <td>4人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	ファッションビジネス検定	③	6人	4人	ファッション販売能力検定	③	4人	4人				
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																				
ファッションビジネス検定	③	6人	4人																				
ファッション販売能力検定	③	4人	4人																				
				<p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)</p> <p>■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等</p>																			
中途退学の現状	■中途退学者 0名 ■中途退率 8% 平成28年5月1日時点において、在学者16名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者16名(平成29年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 カウンセリング、転専攻、転学科の実施。 学科担当教員が、日頃より学生とコミュニケーションを密にする。																						
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 奨学生制度(試験奨学生、チャレンジ奨学生、高校既卒者・社会人奨学生)、AO特待生入学、縁故優遇制度、語学優遇制度、在校生表彰制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																						
当該学科のホームページURL	https://www.sdg.ac.jp/corse/fashion/business/																						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

ファッション学科教育内容

① ベーシックデザイン、デッサン、ファッション造形、基礎CGは必修科目で、基礎力を育成

② 専攻授業で即戦力を養成するカリキュラム

③ 視覚伝達論やファッション論で、幅広い教養科目

④ 就職に向け、ソーシャルコミュニケーションや就職対策でビジネス能力検定やマナー、面接などを学ぶ

上記の教育内容を企業等との連携により、必要となる最新の知識・技術・技能等を反映するため、企業等の意見を十分に活かし改善等計って行く。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程の編成にあたっては、教育課程編成委員会での審議を通じ示された企業等の要請その他の情報・意見を十分に活かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施するにふさわしい教育課程の編成に努めなければならない

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	1年更新	①
石黒 由紀夫	石黒工作所(有) 取締役	1年更新	③
澁谷 俊彦	専門学校札幌デザイナー学院 学校長		
立岡 好人	専門学校札幌デザイナー学院		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

② 学会や学術機関等の有識者

③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回 春、秋

(開催日時)

第1回 平成25年11月3日 15:00～16:30

第2回 平成26年2月7日 15:00～16:00

第3回 平成26年9月19日 10:00～11:30

第4回 平成27年2月26日 12:30～14:00

第5回 平成27年12月18日 12:30～13:30

第6回 平成28年5月19日 13:10～13:30.

第7回 平成28年12月16日 12:15～12:35

第8回 平成29年10月20日 11:00～11:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。1、クラス担任制2、前後期・二期制3、1年次進級試験4、2年次卒業制作5、教員マニュアル6、学習案内作成

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

課題制作・打ち合わせ・発表を通し実作業の経験を繰り返し習得させる。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

教室内での打ち合わせ

実技指導

作品チェック

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ファッション造形	衣装制作を通じて、ファッションショーや作品発表に於ける様々な表現ツールを制作	フリーデザイナー 安楽 恵子

ファッションイラスト	デッサンを通じた作品完成予想の視覚伝達方法の学習する	フリーデザイナー 安楽 恵子

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

連携企業の担当者とともに、関連団体のイベントや関連企業への現場訪問を通して、業界の情報収集や情報共有などで教員の資質の向上を図って行く

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

北海道私立専修学校各種学校連合会主催 教員研修会(7月、12月)

マイナビ研修会(H29.5.25)

Jobカフェ北海道教員研修会(H29.5.31、H29.6.7)

② 指導力の修得・向上のための研修等

北海道私立専修学校各種学校連合会主催 教員研修会(7月、12月)

マイナビ研修会(H29.5.25)

Jobカフェ北海道教員研修会(H29.5.31、H29.6.7)

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

北海道私立専修学校各種学校連合会主催 教員研修会(7月、12月)

② 指導力の修得・向上のための研修等

北海道私立専修学校各種学校連合会主催 教員研修会(7月、12月)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会は学校法人北海道安達学園に位置付け、本法人の各学校に関係の深い企業等関連の方々を中心に、自己評価を基にご意見等を幅広くお聞きして、今後の教育活動や学校運営に反映させるべく法人全体に係る学校関係者評価を実施する

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	1-1 理念・目的・育人人材像は定められているか 1-2 学校の特色は適正か 1-3 学校の将来構想を抱いているか
(2) 学校運営	2-1 運営方針は定められているか 2-2 事業計画は定められているか 2-3 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-4 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-5 意思決定システムは確立されているか 2-6 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

(3)教育活動	3-1各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-2修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 3-3カリキュラムは体系的に編成されているか 3-4学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-5キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 3-6授業評価の実施・評価体制はあるか 3-7育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-8教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-9成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-10資格取得の指導体制はあるか
(4)学修成果	4-1就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られている 4-2資格取得率の向上が図られているか 4-3退学率の低減が図られているか 4-4卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5)学生支援	5-1就職関する体制は整備されているか 5-2学生相談に関する体制は整備されているか 5-3学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 5-4学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5-5課外活動に対する支援体制は整備されているか 5-6学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-7保護者と適切に連携しているか 5-8卒業生への支援体制はあるか
(6)教育環境	6-1施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 6-2学科実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-3防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	7-1学生募集活動は、適正に行われているか 7-2学生募集において教育成果は正確に伝えられているか 7-3入学専攻は適性かつ公平な基準に基づき行われているか 7-4学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	8-38中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 8-39予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 8-40財務について会計監査が適正に行われているか 8-41財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	9-1法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-2個人情報に監視、その保護のための対策がとられているか 9-3自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-4自己点検・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	10-1学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 10-2学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11)国際交流	11-1グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会実施の意見として、自己評価に基づくことと了承。今後は、自己評価の課題を踏まえ、今後の改善等を計画的に検討し改善等を計り、各校・各学科に活用していくこととする

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年10月31日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	1年更新	企業等委員
松倉 大樹	株式会社きしだ Studio BACU CGIチーフディレクター	1年更新	企業等委員
原 大介	ユアワークス 代表	1年更新	企業等委員
本間 裕也	北海道犬ぞり連盟 事務局長	1年更新	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
 (例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
 (公表方法:ホームページ 公表時期:平成29年11月中)

URL:https://www.sdg.ac.jp/top/wp-content/uploads/2016/09/P2015_SDG_20160301.pdf

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校が設定する情報項目に基づき、学校関係者へ幅広く情報を提供する

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・基本情報 ・開校の目的 ・沿革 ・教育方針
(2)各学科等の教育	・定員 ・各学科 教育理念・教育方針・教育内容(カリキュラム・目指す資格・行事)
(3)教職員	・教職員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取り組み ・実習・実技、企業連携等の紹介(インターンシップ等) ・就職支援の取り組み(キャリアセンター)
(5)様々な教育活動・教育環境	・校外実習 ・校外見学 ・学校設備状況 ・サークル活動等 ・海外研修
(6)学生の生活支援	・学生生活サポート
(7)学生納付金・修学支援	・学費 ・学費サポートシステム
(8)学校の財務	・消費収支計算書
(9)学校評価	・自己点検自己評価 ・学校関係者評価
(10)国際連携の状況	・国際交流・連携
(11)その他	・災害時非常時緊急時の対応

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

<https://www.sdg.ac.jp/%E6%83%85%E5%A0%B1%E5%85%AC%E9%96%8B/>

授業科目等の概要

(文化教養専門課程ファッション学科ファッションビジネス専攻) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			視覚伝達論	バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーションの有り方の違いなど、ビジュアルを主とするコミュニケーションの方法論を学ぶ。	1 前期	34	2	○			○		○		
○			ソーシャル・コミュニケーション	社会人としての基本的なマナーやビジネス文書を学習。ビジネス能力検定のための学習も行う。	1 前期	34	2	○			○		○		
○			ベーシックデザイン	デザインの基礎となる色彩感覚を養うと同時に、色彩検定の対策も行う。	1 前期	34	2			○	○			○	
○			ファッションイラスト	デッサンを通じた作品完成予想の視覚伝達方法の学習する。	1 前期	34	2			○	○			○	○
○			ファッション造形	衣装制作を通じて、ファッションショーや作品発表に於ける様々な表現ツールを制作。	1 前期	68	4			○	○			○	○
○			ヘアメイク	ファッションやTPOに合わせたメイクアップ基礎とファッションイベント等に対応出来る美容テクニックを学習する。	1 前期	34	2			○	○			○	
○			ファッション知識	ファッションビジネスを理解し、デザインの考え方や発想方法を学ぶ。	1 前期	34	2	○			○			○	
○			CG	コンピューターの基礎から、イラストレーター・フォトショップを中心に、技術・表現方法を学ぶ。	1 前期	34	2			○	○			○	
○			プレゼンテーション	作品や技術をより良く見せるためのプレゼンテクニックを学ぶ。	1 前期	34	2			○	○			○	
	○		ファッションビジネス専攻	ショップで働く為の知識や接客方法を学び、ショップを演出・運営できる総合的なものを習得。	1 前期	136	8			○	○			○	
合計						10	科目	476単位時間(28		単位)		

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程ファッション学科ファッションビジネス専攻) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			視覚伝達論	バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーションの有り方の違いなど、ビジュアルを主とするコミュニケーションの方法論を学ぶ。	1 後期	32	2	○			○	○			
○			ソーシャル・コミュニケーション	社会人としての基本的なマナーやビジネス文書を学習。ビジネス能力検定のための学習も行う。	1 後期	32	2	○			○	○			
○			ベーシックデザイン	デザインの基礎となる色彩感覚を養うと同時に、色彩検定の対策も行う。	1 後期	32	2			○	○			○	
○			ファッションイラスト	デッサンを通じた作品完成予想の視覚伝達方法の学習する。	1 後期	32	2			○	○			○	○
○			ファッション造形	衣装制作を通じて、ファッションショーや作品発表に於ける様々な表現ツールを制作。	1 後期	64	4			○	○			○	○
○			ヘアメイク	ファッションやTPOに合わせたメイクアップ基礎とファッションイベント等に対応出来る美容テクニックを学習する。	1 後期	32	2			○	○			○	
○			ファッション知識	ファッションビジネスを理解し、デザインの考え方や発想方法を学ぶ。	1 後期	32	2	○			○		○		
○			CG	コンピューターの基礎から、イラストレーター・フォトショップを中心に、技術・表現方法を学ぶ。	1 後期	32	2			○	○			○	
○			プレゼンテーション	作品や技術をより良く見せるためのパソコン加工によりプレゼンテクニックを学ぶ。	1 後期	32	2			○	○			○	
	○		ファッションビジネス専攻	接客の応用から、コーディネート提案、ビジュアルマーチャンダイジングのテクニックなどを学ぶ。	1 後期	128	8			○	○			○	
合計				11 科目				4	4	8	単位時間(2	8	単位)	

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程ファッションビューティー学科ファッションアドバイザー専攻) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			デザイン論	ファッションの歴史を学び、デザインとの関わりを学ぶ。	2 前期	34	2	○			○			○	
○			就職対策	実践に即して、企業訪問、面接試験、就職用ポートフォリオ作成の指導を行う。	2 前期	34	2	○			○		○		
○			ファッション造形	衣装制作を通じて、ファッションショーや作品発表に於ける様々な表現ツールを制作。	2 前期	68	4			○	○			○	○
○			ファッション知識	業界研究や、必要とされる計数などについて学び、業界への理解を深める	2 前期	34	2	○			○		○		
○			CG	実践作業を中心にデザイナーとしての、より高いスキルと意識を身につける。イラストレーターやフォトショップの復習・応用。	2 前期	68	4			○	○			○	
○			プレゼンテーション	ファッションショー企画を通してプレゼンテーション能力を養う。	2 前期	102	6			○	○			○	
	○		ファッションアドバイザー専攻	ショップ運営に必要な知識・技術を高め、実践的シュミレーションを行う。	2 前期	136	8			○	○			○	
合計					7	科目		4	7	6	単位時間(2	8	単位)	

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程ファッションビューティー学科ファッションアドバイザー専攻) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			卒業制作・企 画	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2 後 期	64	4			○	○		○	△	
○			卒業制作・制 作	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2 後 期	96	6			○	○		○	△	
○			卒業制作・演 習	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2 後 期	160	10			○	○		○	△	
○			卒業制作・作 品	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2 後 期	96	6			○	○		○	△	
○			卒業制作・ス キルアップ	卒業制作の作品作りだけではなく、就職用のポートフォリオを充実させ、何時でも就職活動出来るよに作品制作。	2 後 期	32	2			○	○		○		
合計				6 科目					4 4 8 単位時間 (2 8 単位)		

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。